

少子化を課題とした地理歴史・公民科学習

浅井 祐¹

本県では、全国を上回るスピードで少子化が進んでいることから、かながわ新総合計画21改訂重点プロジェクトに「子どもを生み育てることに夢を持てる社会づくり」を位置づけている。

本研究では、少子化の進行に対応し、高校生が少子化問題を自らの問題として受けとめていくことを促すために、地理歴史・公民科授業においてどのような学習の展開が可能かを検討し、学習指導案を作成した。

はじめに

1 研究の背景

1997年度にスタートした「かながわ新総合計画21（新総21）」は、21世紀初頭（2015年度）を展望し、神奈川の将来像と政策の基本方向を明らかにしている。その計画書の[第1章 時代の変化と見通し]では、人口問題について次のように分析している。

1 人口減少社会の到来

神奈川の人口は、2009年にはピークに達し、その後減少すると予測されます。人口の高齢化は全国平均を上回るスピードで進み、高齢者の単独世帯の増加など世帯構成が変化することが想定されます。

こうした状況から、経済や都市の成長が緩やかになります。社会にゆとりが生まれる可能性があります。

(1) 少子・高齢化の進展

ピークを迎える人口

子どもを産み育てるための社会環境の遅れ、女性の晩婚化や社会進出などに伴い、合計特殊出生率（一人の女性が生涯に平均して何人の子どもの産むかを示す数値）が著しく低下しています。また、神奈川県への人口流入も減少し、社会増が鈍化しています。この傾向が続くと、本県の人口は、2009年にピーク（約884万人）を迎え、やがて減少していくことが予測されます。

急速に進む高齢社会

健康意識の高まりや医療技術の進歩などにより、平均寿命はさらに伸び、本格的な高齢社会が到来します。このことから、現在生産年齢人口（15歳～64歳）7.0人に対し、65歳以上の高齢者が1人であるのに比べ、2015年（平成27年）に

は、2.8人に1人の割合になると予測されています。今後、神奈川を支えてきた若い世代が急速に高齢化していくことから、神奈川の高齢化は全国平均を上回るスピードで進んでいくものと想定されます。（かながわ新総合計画21 1997）

2000年3月の「改訂・かながわ新総合計画21」では「改訂重点プロジェクト」の1つとして「子どもを生み育てることに夢を持てる社会づくりをめざす」を取り上げている。そして、具体的な施策の方向として「結婚や出産は個人の選択によるものであることを基本にしながら、若い世代が家庭を築き、子どもを育てていく喜びや楽しみを享受できるよう、県民に考える機会を提供し、幅広い議論をとおして少子化に関する諸課題についての関心を高めます。」と示している。

2 研究の目的

本県のみならず、少子化に関する諸課題についての関心を高めることは、社会全体の中で行われるべきことであり、学校教育もその役割を担わなければならない。そしてこのことは地理歴史・公民科の教科の目的を達成することにもなると考える。

そこで、本研究では、地理歴史・公民科の学習指導案を作成し、少子化の進行に対応し、高校生が少子化問題を自らの問題として受けとめていくことを促す授業実践に向けて、その指導のあり方を探ることとした。

研究の内容

1 少子化学習の可能性の検討

学習指導案の作成に当たっては、「学習指導要領（地理歴史・公民）」における少子化の取り扱いについて確認するとともに、新聞など報道での扱いなどにも着目した。また「結婚や出産は個人の選択によるものであること（新総21 2000）」を前提として検討をすすめた。

学習の展開については、生徒の実態を考慮して「社会を理解する」「社会をつくっていく」「情報活用能

1 人材育成課 研修指導主事（兼）指導主事

力を高める」など、様々な学びの方向での学習指導のあり方を検討する。

指導に当たっては、生徒に教えるだけでなく気付かせることが大切なので、調べ学習や、少子化が及ぼす影響をメリット・デメリットの両面から考察したり、他者と意見交換をする等の学習場面を設定し、自らの課題として受けとめることを促すように工夫する。

作成する学習指導案は、あまり多くの単元時間をとることなく実施できるものを工夫する。また、生徒の活動場面や教材・ワークシートについては、地理歴史・公民科の他科目での利用を意識して考案する。

2 学習指導案の作成

(1) 日本史A「子どもたちと現代史」

「日本の人口ピラミッド」や写真集「20世紀キッズ」を用い、人口減少期について時代と関連づけて理由を考察させることにより、資料を活用する能力や、歴史的思考力を育成する。また、戦後の経済発展とその後の少子高齢社会との関係を多様な視点から考察する。そして、将来の予測を通して、少子高齢社会を身近な課題として考えることができるようにする。

(2) 地理A「地元横須賀から考える」

「身近な地域の人口ピラミッドの考察」や「様々な職業における少子化のメリット・デメリットの考察」という学習活動により出生数の変化の背景を分析し、資料活用能力を育成するとともに、少子高齢社会を身近なものとしてとらえるようにする。さらに、自らの生涯設計や身近な地域の未来を考察させることにより、様々な視点から少子高齢社会をとらえることができるようにする。

(3) 地理A「増え続ける人口」

「世界の人口推移」「人口増減の要因」「人口ピラミッド」等の学習を通じて、人口爆発や人口停滞などを世界的に考察し、問題点を明らかにする。そして、「日本の人口構成の推移」「高齢社会の考察」「世界各国の少子化対策の考察」を通じて日本の社会の少子高齢化について考える。

(4) 現代社会「現代の社会生活と青年 少子高齢化」

近年の少子化の進行と平均寿命の伸長の状況を理解した上で、少子高齢化が人生の各場面でどのように影響するかを、メリット・デメリットの両面から考え、自らのライフプランを作成する。その学習活動を通じて主体的な生き方を考察する。

(5) 政治・経済「少子高齢社会と社会保障」

「現代社会」で学習した内容を基礎に、少子化が社会保障や財政など、国民経済に与える様々な影響を、介護、雇用、年金、医療などの側面から調べる。そして、自らのライフサイクルに及ぼす影響を考察する中で、その重大性を認識するよう展開を工夫する。

3 授業実践やアンケート調査による検証 実践 地理A「地元横須賀から考える」

本授業では生徒は活発に発言し、少子高齢社会の到来という事実についてや、政府や地方自治体の少子化対策について認識することができた。しかし、1時間の検証授業では、少子高齢社会を現実の問題としてとらえ、自らの将来設計や身近な地域の未来を考察する学習活動を深めていくには、時間が不足であった。

(木村教諭)

実践 現代社会「現代の社会生活と青年 少子高齢化」

生徒が少子高齢化のメリット・デメリットをどうとらえるかをアンケート形式で調査した。その結果、生徒が現実的に考えられるのは、「自分の進路」から「子育て」までであり、「老後」に関する項目への関心は低かった。(能勢教諭)

4 研究のまとめと課題

本県の施策を受けて、高校生が少子化を自らの問題として受けとめていくことを促す授業を実施する際の指導のあり方について研究したが、ここで考案した学習指導案・ワークシートなどに示される方法は、テーマが変わっても利用可能であると考え。様々な学習活動の場面で、参考になることを願っている。

課題としては、教科・科目間の関連を考慮することである。実践からもわかるように、時間の制約のある中で、このような授業を展開する場合、他教科・科目で得た知識の活用が不可欠である。関連をふまえて、実施時期を考察することにより、学習が深まると考える。

おわりに

最後に、本研究を進めるにあたり、ご協力いただいた次の先生方に対し、深く感謝を申し上げます。

[調査研究協力員]

県立海老名高等学校 梶ヶ谷 穰

県立横須賀工業高等学校 木村 芳幸

県立中沢高等学校 佐々江 滋

県立鶴嶺高等学校 能勢 博之

[教育指導員] 東川 宏

[長期研修員]

横須賀市立逸見小学校 野村 一雄

引用文献

神奈川県ホームページ (<http://www.pref.kanagawa.jp/>) より「かながわ新総合計画21」

参考文献

毎日新聞社1999「20世紀キッズ」

国立社会保障・人口問題研究所「少子化情報ホームページ (<http://www1.ipss.go.jp/>)」